

学校校舎の耐震性判定における簡易三次診断結果の検証について

(加納副委員長) 私ども公明党は、学校の耐震診断、安全性を重視すべきだということもあって、この数年言い続けてきたわけです。そして、いよいよ空調の設置についても3年かけてやる。

私どもは過日の10日に、現年度の議案関連でこの件についてお伺いさせていただきました。一方でお金の問題はあるけれども、一番大事なところは老朽化も含めてしっかり学校の耐震をお願いしたいということで、先ほど来お話があった牧嶋委員の観点、視点という問題について、私どももよくわからなかったのですけれども、やっとここに来て簡易診断、精密診断の違いだとか、そして横浜市が対外的に発信している九十数%という問題についてももう一回見直さなければいけないということがわかりました。

それから、教育委員会が持っているデータと、皆さん方が持っているデータとの違いもはっきりしましたね。横断的に見たときに、本市が持っているデータが局によって違っている。これも知らなかった。でも、今牧嶋委員の御指摘で、同じものの耐震化率を言っていながら、それぞれの局の持っているデータもマップも違っていた。そのことをそれぞれが認識していなかった。ある時期から認識し出して、水面下で努力して、それぞれがオープンにしない中で、一生懸命水面下でデータをしっかり合わせなければいけない。それぞれが確認しなければいけないという、そこまでデータが違っていたということと、そのデータをしっかり確認しなければいけないということをオープンにしないで、皆さん方が一生懸命努力していただいて対応を図った。

でも、対外的には本市の耐震率は何%ということが一方で言われる。だから、この委員会での指摘というか、意見を真摯に受けとめていただきたい。特にここは横断的に物事を進めていかなければならないところですから、今牧嶋委員がおっしゃっている視点、観点はしっかりわかっていた上で、安全性をどうするかということです。もちろん費用対効果の問題もありますけれども、そういったことはこの2年間にわかってきたし、皆さん方もほかの局と違うということも理解したし、そのことが今後の安全性からしたら大変厳しい状況にあることも理解して進めているわけですから。

そういった意味では、この議論の結果を前向きにとらえていただいて、安全性を重視しなければいけない。局長や副市長がおっしゃっていることも一方でわかる、お金の問題も含みますけれども、この耐震化の問題については本当にしっかりと進めていただきたいということだけ申し上げておきます。